

梅鶯仏教壮年会報

第182号
2023年
5月14日

法輪寺永代経法要

日時 6月3日(土)

10時 日中法要 お説教

13時半 速夜法要 お説教

講師 御厨得雄師(布教使)

北村宗吾氏追

悼法要

五月二十八日(日)

ありがとうございました 北村新一郎

今から60数年前、その日は宗吾様、静江様、お二人の結婚式当でした。

当時は各家での式が普通で、私は小学校1年生、三三九度の杯の注ぎ役、

人の役を任されていました。

初めの事で、粗相のないようにと注意を受け緊張していました。それが

宗吾様との初対面です。それがその後、

梅鶯仏教活動においても変
わっているだけで、宗吾様が参加さ
れていた。ただで安堵感を持ち
ました。長い間お世話になり、やさ
しく見守って頂きまして、本當
にありがとうございます。

宗吾さん、ありがとうございました 北村喜代

信 昨年1月に行われた老人
クラブのグラウンドゴルフ大会
に参加の由、お聞きしていま
したので、ご逝去の報にびつ
くり致しました。
折に触れ、にこにことした
お顔で一きよじやん元氣か？
どうしてやーる？と私の父
親への気遣いなどお声がけい
ただきました。が、宗吾さん
は、本当に温和で暖かい包容
力のある大きな人柄の方であ
りました。
じめ色んな団体のお誘いを
のちようない出来な者によく
をかけた、公私にわたりご指

まだまだ、宗吾さんとは社
会の先輩として、親戚として
手ほどきをいただき、また梅
鶯仏教会で同行として、ご一
緒にお念仏申し上げたり、お
斎をいたただくのを樂しみに
たかつたのであります。が、残
念なことであります。
今は、宗吾さんからご生前
賜りました御恩に報いること
を誓い、引き続きお浄土から
ご教化賜りますことをお願い
申し上げます。

北村宗吾さんをお忍びして 田中

薫 宗吾さんはとても温厚なお
人柄であられたことは誰しも
認めるどころです。
事として何より奥様を大変大
仲睦まじさはみんなが羨むと
ころです。
幾度となくお二人をお見掛け
いたしました。
担 晩年は畑仕事ですが、それ
でもお二人で畑仕事をなさ

題材法話

浄土真宗のみ教え ⑬

「**光の浄土**」

＊拝読「浄土真宗のみ教え」の28頁をお読み下さい。

究極の目的とする世界
 「お浄土」です。
 私たちがこの世の命を
 終えた後のことは、私た
 ちのいかなる知識や経験
 で推し量つても知ることは
 できませんが、ただし
 は因果の道理からして、私
 たちの生きざまを因とす
 るなら、けつして良い結
 果が生じるとは考えられ
 ません。
 いわゆる「流転輪廻」
 迷いの世界を彷徨うこと
 になるのでしょうか。
 その流転輪廻
 して安らかで穏
 地であるお浄土
 ようと誓つて下
 阿彌陀様の本願
 浄土とは迷い



高楠潤次郎先生は、
「人間の尊さは可能性
の広大無辺なることで
ある。その尊さを發揮
した完全位が仏であ
る」と述べられてい
る。

「無限の可能性」がある、皆、仏に成ることのできる本質を有してゐるのだということですね。

事実、お釈迦様という方は、人間としての体を持ったままです。悟りを得られた方です。

お釈迦様は、因果の道理によつて生じる全てのことを見抜き、生老病死も含めて、ありのままに見、ありのままに受け入れることの出来る境地に達せられたのです。

その境地は私た間とどこが違うのでしょうか？



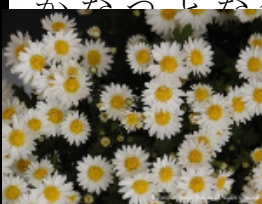
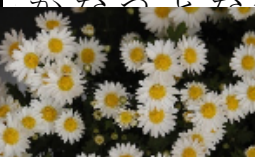
釈迦様は、「第一の矢は受けるけれど、第二の矢は受けない」とお答えになりました。

「第一の矢と云ふのは、病氣そのもの、病氣にかかるとそのものを」

言います。お釈迦様は悟りを得られたけれども、「有る余依（うよえ）涅槃」といつて人間としての肉体が残されたままのかたちで悟られましたから、病気にめかかると、またそのために肉体的苦痛も受けるということです。

けないけれども第二の矢は受けない。これは病氣から生まれてくる不安や心配といつた精神的な苦しみは受けないといふことなのです。

私たちは、病氣になる前には「病氣にならぬ」と思ひ、病氣になつてもつとひどくなくかゝるだらうか。



とです。これを仏教では煩惱と呼び、煩惱があるから苦しむのです。

また、この第二の矢
は病で自分が苦しむだ
けではなく、コロナ感
染症拡大時にも見られ
たように、差別や偏見
を生み出し、他人を苦
しめてしまうことも多
いのです。

ですが、お釈迦様は、
病気をそのまんま受け
入れて、そういつた悩
みや苦しみはないとい
われるのです。それが、
安らぎの世界であり、
悟りを得られた方なの
です。

○光の浄土

迷い、苦しみの原因である煩悩の束縛を完全に離れば、お釈迦さまと同じ悟りの境地に達することができるのであり、お浄土とは身近な世界なのです。